

ローランド株式会社

2024 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会 Q&A 要旨

日時：2024 年 11 月 8 日 13:00~14:00

説明者：代表取締役社長 CEO 兼 CIO 藁輪 雅弘、執行役員 CFO 袴田 裕一

Q1. 通期業績予想を下方修正した要因について教えてください。

7 月・8 月の数量ベースでの売上が厳しかったことが最大の要因です。10-12 月期の営業利益（説明会資料 P19）は為替影響を除いて前期比並みを想定しています。7-9 月期のマイナス分を無理に挽回して、セルインとセルスルーのバランスを再び崩すことのないよう運営していく方針です。

Q2. 7-9 月期の製品別売上高（説明会資料 P26）について、鍵盤楽器がプラス転換した要因と管打楽器、ギター関連機器、映像音響機器のマイナスが大きい要因について教えてください。

鍵盤楽器についてはマーケットの底打ち感が出てきていると感じており、中国を除くと好調です。管打楽器は、既存製品が終息期に入るタイミングだったこと、前期は DWe を発売したタイミングであったこと、フラグシップモデルや『V-Drums Quiet Design』という革新的な新シリーズの発売が若干遅れたことによるものです。ギター関連機器は、旧製品の市中在庫が残っていたため、4-6 月期に発売した主力製品（ギターアンプ）の追加納入が一旦進まなかったことが影響しております。いずれにしてもマイナス要因は一過性であり、9 月以降は改善傾向を確認しております。映像音響機器については、コロナ禍で非常に盛り上がった個人向け配信需要がかなり落ち着いてきております。今後は利益率の高い BtoB 関連製品にフォーカスしていきます。また前期は新製品発売があったことから反動減も影響しています。

Q3. 価格適正化の進捗について教えてください。

価格競争が激しい電子ピアノのエントリーモデルを除けば、想定より時間はかかりましたが 7-9 月期で価格適正化は概ねできたと考えております。

Q4. 再参入したポータブルキーボードの競争環境について教えてください。

地域別に Roland Cloud を通じてコンテンツをカスタマイズし、お客様の弾きたいジャンルに合わせていくことが可能な点を特徴として打ち出しています。現状はその付加価値を認めていただけており、順調に進捗しています。

Q5. 説明会資料 P21 の Market の課題が解決されていく時間軸についてどのように考えているか教えてください。

今年中に解決され、来年からは徐々に安定成長市場に戻ると考えております。

Q6. 9 月末の棚卸資産が 339 億円ですが、この内訳と前期末と比べて増加している要因、また今期末の水準見通しについて教えてください。

内訳は製商品で 225 億円、原材料・貯蔵品で 97 億円、仕掛品で 16 億円です。前期末から増加しているのは製商品ですが、9 月末は年末商戦を控え在庫を増やすタイミングであり通常の季節性です。今期末は為替影響を除き前期末よりも削減する計画です。

Q7. 市中在庫の現況と年末に向けた推移の見立てについて教えてください。

当社製品の市中在庫は健全な水準に既になっております。他社を含めた市場全体については、電子楽器については適正化が進んでおり今年中に健全な水準になると考えております。

Q8. マクロ経済の悪化による楽器需要全体の悪化リスクについてどう考えているか教えてください。

マクロ経済の悪化の程度によりますが、多少の悪化ではそこまで大きく影響するとは考えておりません。

Q9. 米国で大統領選がありました。生産拠点が中国や東南アジアにある中で、今後の関税リスクについてどう考えているか教えてください。

過去に最も問題になった米国における中国からの輸入品に関する関税に対しては当時から対策を進め、現在ではマレーシアやベトナムに多く生産を移管しておりますので大きな問題はないと考えています。中国以外の輸入品に関する関税に関しては今後の政策の進展を注視していきます。

Q10. スエズ運河等の海上輸送の懸念について、状況の変化などがあれば教えてください。

現状大きな懸念はございません。

Q11. 中国の現状と戦略変更の有無など考え方について教えてください。

非常に厳しい状況に変わりはありません。教育向け需要が苦戦しておりますが、趣味需要の拡大は、長期的な視点では十分に期待できると考えています。

中国以外では新興国は伸びてきており、インドとメキシコ、ブラジルなどの中南米などは中国に代わる成長の柱になることを期待しています。

※本資料は、ご出席者様から頂戴した主な質問をとりまとめたものです。回答の意図をより分かりやすくするため一部加筆修正を行っております

免責事項

本資料には、ローランド株式会社の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、

当社における実際の業績と異なる恐れがあります。